

【普通作物】の【長雨・日照不足】対策について <10月>

農業経営支援課

【普通期水稻】（登熟期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① いもち病が発生しやすくなる。
- ② 登熟不良により、収量及び品質が低下しやすくなる。
- ③ 成熟期頃の稲では、穂発芽が発生しやすくなる。
- ④ 土壌が柔らかい場合、収穫作業が困難となる。
- ⑤ 収穫時の籾水分が高くと、コンバインのこぎ胴での損傷が生じやすい。
- ⑥ 水分の高い籾を、急激に高温で乾燥すると玄米の品質低下が生じやすい。

（2）事前対策

- ① 長雨下での液剤や粉剤防除は時期を逃しやすいが、散布後に薬剤が乾けば効果はあるため、天候をよく確認しながら防除を行う。なお粒剤を使用する場合は、多雨での流出（オーバーフロー）に注意する。
- ② 収穫5日前迄間断かん水を行い、根の活力維持を図る。
- ③ 穂発芽の多い箇所は刈分けして、全体の品質が低下するのを防ぐ。
- ④ 収穫作業に向けて排水に努め、できるだけ土壌を固める。
- ⑤ 高水分の籾をコンバインで収穫する際は、こぎ胴の回転数を調整する。
- ⑥ 高水分の籾を、火力乾燥する場合は通風を十分に行い徐々に温度を上げる。

（3）事後対策

- ① 穂発芽が多発した場合は、刈り分けし品質低下を防ぐ。

【大豆】（莢肥大期～黄熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 湿害により莢肥大が不良となる。

（2）事前対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。
- ② カメムシの発生に注意し防除を行う。

（3）事後対策

- ① 莢の結実不良で青立株が発生したら抜き取る。

【秋ソバ】（開花期～子実肥大期）

（１）予想される被害状況

- ① 湿害により生育不良となる。

（２）事前対策

- ① ほ場周囲及び畦間に排水溝を設置する。

（３）事後対策

- ① 排水対策を徹底する。